

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	3874000353		
法人名	社会福祉法人 御荘福祉施設協会		
事業所名	グループホーム みしょうの里		
所在地	南宇和郡愛南町御荘早城2020番地 (電話) 0895-73-1312		
管理者	赤松 直美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 8 月 6 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 17 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	11,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 280 円
	夕食	250 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 780 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 15 日事業所記入)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護 1		名	要介護 2	2 名	
要介護 3		名	要介護 4	3 名	
要介護 5	3 名		要支援 2	名	
年齢	平均 84.6 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改修・増築した住まいは利用者にとって懐かしい雰囲気があり、寄り添いながらの我が家そのままの生活を可能にしている。楽しみとなっている食事は地元の新鮮な食材を使い、美味しく満足できる。誠実で実行力のある管理者を中心に、職員同士が尊重し合い、まとまりがある。穏やかな利用者の表情からは安心感が感じ取られ、職員の心優しい対応や常に笑顔でいることなど「利用者の思い」を重んずるケアの実践があらわれていることがうかがえる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

改善計画書兼改善状況確認書を作成し、項目には優先順位を設け、可能な限り改善していく意欲が感じられる。中でも同業者との交流は、運営推進会議で提案して企画実施しており、有効に目標達成できている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

全職員が日常のケアの振り返りや見直しを含め項目ごとに書き込み、熱心に取り組んでいる。計画のねらいや活用方法の理解度は高く、更なる学習が期待できる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

地域代表・町職員・家族・利用者等が参加し、議事の内容を着実に深めながら、評価改善計画についても丁寧に関わっていることが議事録からうかがえる。2か月に1回の運営推進会議が今後も有効に進められ、地域との交流がさらに深まっていくことが期待できる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

利用者の健康状態や人間関係を気にかけている家族が安心できるよう、ホームから定期的な連絡や報告をしている。読み応えがあり見て微笑ましい運営法人発行の月刊誌と気づきの記録を届け、より濃密な信頼関係を築いている。家族の立場に立って要望を受け止めることに力を注いでいる。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

町内会には特別会員として加入している。日常的に散歩に出かけて近所の方と挨拶し合い、交流を深めている。近所の方から農作物などをいただき、お返しにホームで収穫したすいか等を差し上げることもある。さらに地域とのつながりを持ちながら暮らし続けていけるよう計画中である。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム みしょうの里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 赤松直美

評価完了日 平成 20 年 7 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 毎年、年度初めに話し合いを持ち、理念の見直しを行っている。利用者の思いを知る為にはどうしたらいいのかを念頭に置き、理念に組み入れている。 (外部評価) その人らしい生活を支援できるよう、いつも「思い」を大切にしている。具体的の方針の中で地域との交流に努めることも加え、絶えず意識しながら日々の生活の中で目標としている。	※	今後も利用者にとって何が大切か、どうすれば生きがいに繋がるかを考慮しながら理念を見直していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を常に念頭に置きながら、ミーティングや職員会議で話し合いを持ち確認している。職員の意識レベルの差や資質等により、取り組めていないと感じる場合もある。 (外部評価) 管理者をはじめ全職員の思いを出し合った理念は端的で明瞭に示されている。日々の介護においては職員一同で話し合い、提供場面で理念が反映されるよう積み重ねている。	※	日々、利用者一人ひとりの思いに応えようと努力しているが、時に見過ぎてしまう場合もありさらに理念の実現に向けて研鑽していきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族には理念について来訪時に説明し理解していただいている。また、地域住民には運営推進会議や地区集会等でパンフレットを配布しながら説明しているが、充分には浸透していない。	※	今後も運営推進会議や地区集会等を利用し、地域の方々に理念を理解していただけるよう働きかけていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩中や母体である特養発行の機関誌配布時などに挨拶を交わしたりしている。またホームで咲いた花や頂き物のおすそ分けをしたり、いただいたりしている。顔見知りではあるものの日常的に気軽に立ち寄っていただけるとまでは至っていない。	※	運営推進会議出席者の方が、ある時はお孫さんと共に、またある時はご家族全員で来訪し利用者の方々と交流されている。今後も、このような関わりを大切にしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 毎週月曜日、地域交流センターやホームで地域の方々とカラオケ交流を行っている。また年に一回の地区総会に出席したり、定期的に行われる役員会にホームを利用していただき避難訓練等の参加を呼びかけたり、地域の避難訓練に参加したりしながら交流を図っている。 (外部評価) 近くまで散歩に出かけたり、鯉の餌やりの途中で挨拶を交わすことは、利用者の元気の源になっている。近所の方から野菜などをいただき、お礼にホームで収穫したすいか等を差し上げることもある。	※	今後も地域とのつながりを大切に、より多くの人達と接する機会を持てるよう努めていきたい
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で、また地域の集会等で少しずつではあるが認知症について理解をしてもらっている。要望があれば実習生を受け入れている。	※	今後もさらに地域貢献に向けての取り組みを職員全員で話し合いを持ちながら進めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行いながらサービスの質の向上に努めている。また外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し取り組んでいる。 (外部評価) 自己評価は、全職員が一つひとつの項目を丁寧に書き込み、意見を出し合ってまとめている。外部評価をケアの振り返りや見直しに役立てるため、改善に取り組むための計画と記録が残されており、熱意や意欲が感じられる。職員会議では、評価のねらいや活用方法について熱心に学習している。	※	今後も自己・外部評価を活かした取り組みをしていき、さらにサービスの質の向上に努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月毎の運営推進会議にて報告。話し合いを行い、気づきや意見等いただきサービスの向上に活かしている。	※	今後も運営推進会議で評価結果を公表し、意見等をいただきながら質の確保を図っていききたい。
			(外部評価) 運営推進会議で他施設の視察研修を企画・実施し、良い所を活かしていく取り組みがなされている。地域の理解や支援を得るための貴重な会議になっていることは、議事録からも読み取れる。会議はホームの離れで行っており、利用者や家族も参加している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 機会を設け、相談しながら意見等いただいている。また町の講演会へも積極的に参加しサービスの質の向上に努めている。	※	これからも相談しやすい関係を築いていけるよう努める。 町担当者にホームのことをよく知ってもらい、関心を示してもらえよう考え方や実態を共有する取り組みが望まれる。
			(外部評価) 町主催の講演会に出席したり、インフルエンザ等の感染症対策などについて町保健師に相談することはあるが、行政と深く関わったり働きかけるところまでには至っていない。	※	
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 南予地区研修会や職員会、母体の特養での職場内研修会に参加し理解を深める為の勉強会を行っている。	※	しくみが複雑な為、なかなか理解できにくいですが、今後も定期的に勉強会を行っていく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 母体の特養で身体拘束虐待防止委員会があり、毎月参加し話し合いを行っている。またホームでも職員会で毎月取り上げ、話し合い、虐待防止に向けて取り組んでいる。	※	今後も、気づきを大切にしながら徹底的に話し合い、小さなことでも決して見過ごさないよう虐待防止に取り組んでいく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約に関する説明書を見ていただきながら、時間をとって丁寧に説明し、理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃の利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力を行い、職員全員で思いに応えようと努めている。が時に見過ごしてしまうこともある。	※	今後も意見等、出しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の思いに応えていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎日1～3行程ではあるが、日常の様子を記録し、毎月母体の特養発行の機関誌と共にご家族へ渡している。また、状態に応じて電話も利用。金銭管理は台帳に記入し(領収書も添付)ご家族にサインをいただいている。 <hr/> (外部評価) 家族の来訪時には積極的に話しかけ、日頃の様子や健康状態等を報告している。月に1回、運営法人発行の月刊誌と利用者一人ひとりの日常生活の気づきの記録を添付して家族の元に届けており、好評である。	※	日々の記録については、様子が良く分かると、ご家族に好評の為、今後も継続していく。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には来訪時や電話等で何でも言っただけのような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望等はミーティング話し合い、運営に反映させている。 <hr/> (外部評価) 利用者は皆穏やかな表情で過ごしており、家族からの意見や苦情や不満はほとんどないが、さらに家族に心を開いてもらえるよう努力している。意見を表出する機会の確保のため、さらに公的機関の苦情相談窓口の追加を検討している。	※	ご家族は、不満や苦情があっても、お世話になっている、という思いから、なかなか口に出せない心情を汲み取っていく必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々のミーティングや月1回の職員会議等で、それぞれに意見を出し合い、話し合っている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を反映させるよう努めている。	※	これからも職員の気づきを大切にしていく。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の思いを出来る限り支えられるよう、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。	※	利用者や、馴染みの暮らしが、継続できるような関わりを、今後も大切にしていく。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者やご家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの関係が第一と考え、職員の移動等は必要最小限に抑えている。 (外部評価) やむを得ない離職はあったが、管理者及び職員が適切な対応に心がけており、異動等による利用者への影響はほとんどない。	※	利用者や家族はもとより、地域との交流に於ても、なじみの関係は重要である。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 母体である特養が毎月実施している研修会には、毎回ほぼ全職員が自主的に参加し研鑽している。また他の研修会へも順番に参加し、職員会議で発表。研修報告書は特養を含め全職員が閲覧できるようにしている。 (外部評価) 日々のケアの中でも職員を育てるという意向が感じられる。管理者は職員ごとの習熟度に見合った研修に参加できるよう配慮しており、研修後の記録・伝達も行っている。さらに今後も学ぶ機会の確保の具体化が必要である。	※ ※	今後も、職員一人ひとりの、学ぼうとする姿勢を大切にし、質の向上を図っていく。 法人内・外の研修の意義は大きいので、積極的に受講できるよう年間計画の中に位置づけ、機会を確保していく工夫が望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 母体の特養発行の機関誌を送付したり、広報誌が送られてきたり、また見学や研修等の受け入れを行いながら、少しでもうえを目指す取り組みを行っている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会主催の南予地区研修に参加し、顔見知りになった他のホームに見学に行くことはサービスの質の向上に役立っている。また、運営推進会議を兼ねたグループホーム視察を行うなど、同業者との交流や質の向上に積極的に取り組んでいる。	※	同町内に、他のグループホームがオープンする中、互いに交流し合い、勉強させていただき質の向上に努める。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 日頃から職員の疲労やストレスの要因について気を配り、話を聴きながら職員同士の人間関係の把握に努め、いくらかでもストレスが解消できるように取り組んでいる。	※	今後も、職員個々と話し合いを持ちながら、ストレス緩和に向けての取り組みを行っていく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は個別に面談を行いながら、状態を把握。また現場へ足を運び、業務の様子を観察している。職員が向上心を持って働けるよう助言や指導を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前に自宅を訪問し、利用者本人とご家族から十分に話を伺う機会を設けている。利用者の様子やその思いを職員会にて報告し、職員全員で受け止める努力をしている。不安な様子であれば、日中の何時間かを2、3日通所でご過ごしていただき、安心へとつなげている。	※	利用者やご家族が、不安を覚えないよう、話をよく聴くことが大切。求めている物は何か、利用者やご家族の思いを受け止める努力を今後も行っていく。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前にご家族から十分に話を伺っている。ご家族が求めている物は何か、それに対してどのような対応が行えるか等、ご家族の思いを受け止める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案等を行い、必要なサービスにつなげるよう支援を行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ご本人やご家族に見学してもらう事から始め、場の雰囲気を感じてもらおう。不安であれば、日中の何時間かを2, 3日通所で過ごしてもらう等、徐々に馴染めるような工夫をしている。 (外部評価) 緊急にホームの利用を始める時は、利用者及び家族との信頼関係を深めることを重点に置き、利用者が落ち着いて日々の生活が送れ、また家族が安心してホームに任せられることができるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教わる事が多く、そんな場面では必ず、感謝の言葉を伝えている。今までの人生の中で培って来られた事に対して敬意を払いながら、楽しく、穏やかに生活していただけるよう努めている。 (外部評価) 「おかげさまで助かりました」と、感謝の気持ちを言葉や表情で表現しており、利用者と全職員が一つの家族のように成り立っているように感じられる。	※	今後も、利用者の思いを共感しながら、共に学び、支えあう関係を築いていけるよう努める。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と情報交換を行いながら、ご家族の思いを把握し、ご家族と共に職員も同じような思いで支援していることを伝えている。	※	ご家族の中には、お世話になっているのだからと、思いを口に出さない方もおられると思うが、来訪時等の情報交換の中で、語られない部分まで知ろうとする姿勢を今後も大切にしていける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご本人の日頃の状態を1～3行程ではあるが、毎日記録し、ご家族へ報告している。また年に数回程度ではあるが、ご家族へ呼びかけ、里帰りを支援している。	※	今後も、ご本人とご家族の思いを受け止め、より良い関係が継続できるよう努める。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域に暮らす馴染みの知人が時折、尋ねて来て、積もる話に花を咲かせたり、思い出の場所に案内したりと関係継続の支援を行っている。	※	入居をきっかけに、今まで疎遠になっていた家族が頻繁に会いに来られ、その利用者に活気が出て来た。そのようにご家族との関係が継続できるよう、今後も働きかけていく。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や特徴を把握し、みんなで楽しく過ごせるような場面作りを行っている。また毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにし、利用者同士の関係がうまくいくように配慮している。	※	今後も、利用者一人ひとりの個性を尊重しながら、お互いが助け合い、支えあって暮らしていけるように配慮する。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 体調低下に伴い、病院や施設に移られた方もいるが、ご家族が近くまで来たからと、立ち寄ってくださり、近況報告を伺ったり、長期入院により退去された場合、病室に伺うなど、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉だけでなく、表情や態度からご本人の思いを知ろうと、常に配慮している。今、何がしたいのか、その行動は何に向けてのものか等。 (外部評価) 利用者の思いの把握を一番に考えており、気づきノートにその思いや意向対応策・改善点などを細かく記録し、全職員で共有している。	※	時に、その思いを見過ぎてしまう場合があり、利用者一人ひとりの声や、声なき声を聴いていくように努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用までに自宅を訪問し、ご本人やご家族等から聴き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人からどんな生活をしていたかを聴き、後日ご家族に話した折、初めて知りましたと、驚かれることもある。	※	ご本人やご家族から聴き取ったことは、たとえ小さな事でも、職員間で共有し、支援の中に活かすようにしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、出来る事をしていただきながら、役に立っているという喜びを持って、楽しく、安心した生活が送れるように努めている。	※	今後も、利用者一人ひとりを見つめ、その人らしく、楽しく安心して暮らしていただけるように努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 折に触れ、ご本人やご家族からの思いをお聴きし、介護計画にいかしている。3ヶ月毎に、職員会議の議題にもあげ、話し合いを持ちながら、介護計画を作成している。 <hr/> (外部評価) 利用者の日常の様子から気づきや意見を出し合い作成している。家族の来訪時には希望や話を聞き、立案に有効に結びつくよう活かしている。介護計画は記録ノートの表に貼り付け、職員が常に確認できるように工夫している。	※	ご本人の、より良い暮らしに向けての介護計画をいろいろな角度から全員で検討していくことが大切。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月毎に、前回立てた介護計画についての評価を行いながら、ご本人やご家族の要望を取り入れた、見直しを行っている。また状態変化に伴っての検討見直しを行っている。 <hr/> (外部評価) 本人や家族の思いの変化は見直しの大きな要素となっている。介護計画の評価を行い、見直しか継続かを話し合い、要望も加えながら何度も考え練っている。	※	常に利用者一人ひとりに目をかけ、ご本人やご家族の、その時々思いを受け止めながら、皆で話し合いを持ち、状況に応じての介護計画を、今後も作成していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のファイルに状態変化や外出支援等を記録。日々の様子は、1～3行程ではあるが記録している。また介護計画に添っての評価も記録し見直しに活かしている。職員全員が関わりをもって取り組めるようにしている。	※	今後も、状態変化等の日々の様子を個別のケース記録簿に記入しながら、利用者一人ひとりを見つめ、介護計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) ご本人やご家族の状況に応じて、通院等の対応を行っている。ご家族の負担軽減や要望に添っての支援を行っている。 (外部評価) 「自宅に帰ってみたい」「墓参りがしたい」などの要望に対して、多機能性を活かした支援に意欲的に取り組み、利用者だけでなく家族にも喜ばれている。今後も臨機応変に柔軟に対応できる準備ができています。	※	ご本人やご家族の状況、要望に応じて、今後も柔軟に対応していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地区や民生委員の方に参加いただきながら、運営推進会議を行い、話を聴いていただく機会を設けている。また地震時の避難訓練について等、消防署より説明を受ける機会も設けている。	※	今後も、利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域資源と協働していく。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域のケアマネジャーやサービス事業者からの依頼により、ホームの見学等あり、話す機会はあるものの、他のサービス利用までには至っていない。	※	今後は、介護保険以外のサービスも視野に入れ、取り組んでいく方向へ。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 頻繁ではないが、地域包括センターとの交流があり、周辺情報や支援に関する情報交換等、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診等、ご本人やご家族の希望に応じて対応している。利用者の状態に応じて、訪問診療に来てもらう場合もある。 (外部評価) 年に一回定期健診を受け、検診結果は家族にも報告している。看護師である職員が配置されているため医療面での配慮も十分行き届いており、本人や家族の安心につながっている。	※	今後も、ご本人やご家族が希望する医師や医療機関への受診や通院支援を行っていく。職員が対応した場合、ご家族への受診結果報告は継続して行う。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 地域の認知症専門医への定期受診や往診により、相談し、指示や助言を受けている。適切なアドバイスや処方により、早期に解決できている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また母体の特養の看護師も週に一度、来訪し利用者の状態把握に努めるなど、いつでも気軽に相談できる体制を整えている。	※	今後も、協力医療機関や同一法人の看護師へ相談しながら、健康管理に努める。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞い、安心とストレス軽減に向けて支援している。また家族とも情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化に伴う意思確認書を作成し、説明を行い、同意をもらっている。 (外部評価) 看取りの経験は今のところないが、看取りに関する指針を作成しており、本人及び家族に説明して同意書に署名・捺印をもらい、理解してもらっている。	※	今後も状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払い、支援につなげていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今の所、終末期をホームでむかえた利用者はいないが本人の気持ちをご家族を交えてお聴きしている。利用者が安心して終末期を過ごしていけるように、医療機関とも密に連携を図っていく必要がある。	※	今は、終末期について、ご本人とご家族にお聴きしているだけだが、今後は、重度や終末期の対応について、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等、職員全員で話し合っていく必要がある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 現在まで、住み替えとなった利用者は、長期入院となられた方がほとんどだが、中には特養に移られた方もいる。特養でも、本人の状況、習慣や好み、注意が必要な点等、情報を詳しく伝え、また機会あるごとに馴染みの職員が顔見せするなど、住み替えによるダメージを少しでも防ぐよう努めている。	※	今後も、住み替え時には、情報を詳しく伝え、今までの継続性に配慮してもらえるように働きかけていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職場内研修会や職員会議の中で、職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。 (外部評価) 運営法人発行の月刊誌には写真が掲載されているが、プライバシーを守った取扱いに配慮している。トイレや入浴時、居室への入室時等の対応においても一人ひとりの誇りを尊重しており、安心感が利用者の笑顔に結びついている。	※	今後も、利用者に対して、言葉かけや態度等、尊厳を持って接し、プライバシーの確保に努める。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 意思表示が困難な方についても、職員は希望や好みを把握している。些細なことでも、声をかけて、利用者が自分で決めることができるように支援している。	※	本人の希望や好みを把握しながらも、利用者自身で決定するように取り組んでいく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 参拝や周辺の散歩等、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、対応している。庭のベンチに座り、空を眺める方もいれば、その辺の草取りをされる方もいる。テレビの時代劇に見入る方もおられる。 (外部評価) 自宅に居る時より表情が穏やかになったと安心される家族もいる。理念に「その人らしい生活の支援」を掲げ、日々目標に向かって全職員が励んでいる様子がうかがえる。鯉の餌やりをしたり、テレビを見たりしながら、有意義に時間が流れている。	※	今後も、利用者一人ひとりの思いに添いながら、利用者のペースに合わせた支援をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ご本人の好みに合わせて、ご家族が衣服を持参されている。その中には、以前、ご自分で購入された品のいいスカーフやブラウス等もあり、ご本人の好みに合わせて支援させていただいている。	※	「よく似合っていますね。」と、必ず、声をかけるようにしている。今後も、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援していく。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるような雰囲気づくりに努めている。食事の準備や片づけ等、できる力を活かさせていただいている。 (外部評価) 調査当日のメニューである小松菜の調理を手伝ったり、自分でできる片づけを見つけながら、わきあいあいと作業が進められている。何よりも楽しい食事時間には一段と会話が弾み、昔の生活を懐かしく話される場面もあった。	※	母体の特養の管理栄養士が献立を作成しているが、利用者の好みや頂き物、畑で収穫した野菜等を利用し、献立を変更する場合がある。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好品の中で、たばこやお酒をたしなまれる利用者はいないが、利用者の方の好みに合わせた、おやつ作りをしている。利用者と共に採ったヨモギを利用し、ドーナツやしば餅を作ったり、コーヒーを飲んでいただいたりしている。	※	今後も、利用者の方々に、懐かしい思い出と共に喜んでいただけるような工夫をおこなっていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、尿意の訴えない利用者にも、時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。夜間は、ポータブルトイレを使用している利用者もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日、入浴前にはバイタル測定し、日中の様子を観察した上で、ご本人に入浴の希望を確認し入浴していただいている。ゆっくり、入浴を楽しんでいただけるよう、温度や湯船に浸かる時間等、利用者一人ひとりの好みに合わせている。 (外部評価) 端午の節句には菖蒲湯を、冬至にはゆず湯を楽しむなど、季節を感じてもらおう工夫をしている。利用者にとって入浴は楽しみの1つであり、寛いだ気分を味わうことができるよう配慮している。	※	ほぼ毎日入浴を行っているが、時間帯は同じである。利用者や家族からの希望は、今の所でていないが、考慮の必要がある。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を考慮し、日中の活動を促したり、夜間は希望により、好きな時代劇や歌謡曲等、テレビを見て過ごしていただいたりしている。ご本人の希望に添って、安心して休めるよう配慮している。	※	今後も、日中の活動を支援しながら、夜間の安眠が図れるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事作りや洗濯物たたみ、畑仕事やズボンの裾上げ等、経験や出来る力を活かせるような、場面作りを支援している。野菜作りなど、職員が教わることも多く、その事が利用者の方の、楽しみでもあり、気晴らしにもなっている。 (外部評価) 一人ひとりをよく知った上で、役割の発見や気晴らしに繋がる支援を行っている。ある職員が昔の杵柄を披露して利用者の心をひきつけることにより、楽しい雰囲気が増している場面が見られた。唱歌・軍歌・畑仕事・料理の下ごしらえなどで、自分らしい姿を発揮している。	※	その時々感謝の言葉を伝えながら、今後も、利用者一人ひとりにとって、日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものとなるよう努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心する利用者には、ご家族の協力を得て、小額所持してもらっている。買い物した場合、財布を渡し、ご本人より直接、支払っていただくこともある。	※	買い物や喫茶店利用時等、利用者の方から直接、支払ってもらうような支援を行っていく。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望に添って、散歩やドライブ、庭で過ごす等の支援を行っている。買い物に付き添っていただいたり、時には、昼食をレストランで楽しむこともある。 (外部評価) 季節ごとに桜や菖蒲、コスモスなどを見に行ったり、自宅が気になって様子を見に行ったり、出身地まで出向くなど、外出は積極的である。近くの川での鯉の餌やりは日課になっており、近所の方との交流の機会にもなっている。	※	利用者のほとんどの方が、数分前の事も忘れられるが、その時々が笑顔で、生き生きとされるのが大切。今後もご希望に添いながら戸外に出かけていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に数回、場所によれば、数年に一回程度の場所への支援を行っている。ふるさとや温泉、花見や菖蒲見物等計画を立て、利用者の思いに添って支援している。	※	今後も、弁当持参での花見や菖蒲見物、ふるさとへのドライブ等、四季折々に、季節を感じていただきながら、思い出の場所や懐かしい人達の所への支援を続けたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望やご家族等からの電話に対しては、職員がダイヤルして利用者に渡したりしながら、場合によっては、子機を使用し、会話が他の利用者に関わらないように配慮している。	※	懐かしい方からの手紙が届いた場合、ご本人の希望で代筆し返事を書き、今までの繋がりが継続できるよう支援を行っている。ご家族から、母の日のプレゼント等が届いた場合でも、直接、ご本人からお礼が言えるよう支援している。今後も継続。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも、自由に訪問していただき、気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮している。人数や利用者との関係を考慮し、自室や他のスペースを整えている。時には、食事を準備し、利用者、ご家族共にゆったりくつろげたと、喜ばれたりもする。	※	今後も、笑顔での対応に心がけ、いつでも気兼ねなく訪問してもらえるよう、そして、心地よく過ごしていただけるよう配慮する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月に一回、母体の特養での身体拘束高齢者虐待防止委員会や、定期的に行われる職場内研修会に参加し、研鑽している。また、職員会議でも毎月、取り上げ、職員全員で話し合いを持ちながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。	※	何が身体拘束になるのか、疑問に思うことを勉強しながら、今後も身体拘束を決して行わないケアに取り組んでいく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の様子を、さりげなく見守りながら、庭に出て行けば、散歩に誘ったり、うしろから見守りながらついて行く等、安全面に配慮しながら、自由な暮らしに向けた支援を行っている。 (外部評価) 日中は鍵をかけておらず、開閉時にはチャイムが鳴るようにしており、職員は利用者が出て行く気配を察知しながら見守りと連携で対応している。21時から6時までには安全面に配慮して施錠している。	※	地域の方との関わりの中で、顔見知りとなり、気づかない内に利用者の方が外出しても、連絡していただけるような関係を築いていければ、と思う。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は、利用者一人ひとりの様子を把握するように努めている。日中、自室で過ごす利用者にも、時間毎に声をかけ確認。夜間も度々見守りを行い、耳を澄ませ、利用者の状態把握に努めながら、安全に配慮している。	※	今後も、利用者一人ひとりの様子をさりげなく、見守りながら、安全に配慮していく。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 全てを取り除くようなことはなく、注意をしながら、利用者の状態に応じた対応を行っている。すそ縫いなどを希望する方には、縫い針やマチ針の本数を数え、糸やハサミと共に渡している。	※	利用者の状態を十分に把握しながら、したいこと、出来ること等、配慮を行っていききたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやりはつとや、ひやりはつとした出来事に、記録しながら、話し合いを持ち、事故を未然に防ぐ為の、努力をしている。事故につながった場合は、事故報告書を作成し今後の予防対策について検討し、ご家族へも説明と報告を行っている。	※	今後も、職員全員でリスクや危険について、話し合いながら、事故の再発防止に努めていきたい

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に1回、消防署の協力を得て、母体の特養での救命法の学習会に参加している。また、職員会議で、緊急時の対応について、定期的に勉強会を行いながら、研鑽している。	※	定期的に勉強会に参加しているものの、事故は突発的に起こる。その場に居合わせた時に、慌てないように、さらに、研鑽していく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を年3回実施している。ホームでは火災を想定しての訓練実施(2回)。地域との合同では地震を想定しての訓練を行っている。いずれも地域の方の協力が有り、意見等いただいている。 (外部評価) 職員は常に火を出さないことを肝に銘じ、災害対策の基本を共有している。消防署と直結した自動通報装置を完備している。利用者がゆっくり歩いて約8分の所には、避難場所となっている小学校があり、繰り返し訓練を実施している。	※	運営推進会議をきっかけとして、地域の方の協力が増えて来ている。今後も地域の方と、交流をもち、協力が得られるように働きかけていきたい。 より一層地域の協力も得ながら、訓練実施を継続していくことが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 拘束や鍵をかけないことに対するリスクについて、また、利用者の状態変化に伴うリスクについて、その都度、ご家族へ報告し、理解をいただいている。	※	今後も、利用者一人ひとりが、自由な暮らしの中で、生き生きと安心して過ごせるように努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日、バイタルチェックを行い記録している。普段の状況を職員は把握しており、顔色等様子に変化があれば、ご家族に報告し、受診につなげている。	※	利用者一人ひとりの、体調変化や異常を見逃さず、今後も早期発見、早期対応に努める。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の処方箋等、利用者毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡したり、口元まで介助するなど、状態に応じて支援している。看護職員と医療機関との連携は、図れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつに、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。体操や散歩等、身体を動かすことを日課とし、自然排便できるように取り組んでいるが、中には便秘薬を使用している利用者もいる。	※	年々、体調低下に伴い、身体の動きが鈍くなるが、水分をこまめに摂っていただきながら、体調維持や便秘に向けての対応を継続していく。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔清拭の声かけを行い、利用者の状態に応じて、見守ったり、介助を行っている。歯磨き後、口腔内を確認し、磨き残しがあれば、再度、ブラッシング等支援している。	※	今後も、無菌の方の場合でも、毎食後必ず、口腔内の清潔に向けての声かけや介助等、支援を継続していく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体である特養の、管理栄養士が献立表を作成。その献立を基に食事づくりを行っている。利用者の状態に応じて、柔らかくする等、摂取しやすい工夫を行っている。摂取量や水分量は常に確認し、栄養の偏りや水分不足に気を付けている。 (外部評価) 基本となるメニューに多少のアレンジはあるが、季節の野菜、果物、魚など地産地消でバランスよく摂取している。個々の咀嚼の具合を配慮した切り方や形態になっており、適切な水分量も確保できている。体重チェックは月1回行っている。	※	体調を維持し、生き生きとした暮らしの中で食事は重要。今後も、旬の食材を美味しく、喜んで食べていただく為の工夫を行っていく。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 母体の特養で、感染症予防委員会があり、職員が参加しながら研鑽している。また感染症について情報収集を行い、早期対応に努めている。職員共に、インフルエンザ予防接種を受け、ノロウイルス対策として、個人タオルを使用している。消毒は病院用ハイターを使用し、予防に努めている。	※	感染症予防に向けて、今後も、職場内研修等で学び、情報を得ながら、早期対応に努めていく。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材の点検を行いながら、買い物や1日置きにしている。加熱しない食材は、その日に購入。食器は乾燥機を使用し、まな板等は日光消毒を行い、衛生面に充分、配慮している。	※	今後も、職員全員が徹底して、衛生管理を行い、食中毒の予防に努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先に、季節ごとの花を植えたり、椅子やテーブルを置き、気軽に立ち寄っていただけるような工夫を行っている。親しみやすく、ほっと一息つける暖かい場所としての工夫を行っている。	※	古民家としての良さを活かしながら、地域の方に気軽に立ち寄って頂けるように、工夫を行っていく。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 古い民家を活用している為、利用者にとって馴染みの空間の中、居間の飾り付けを一緒にしたり、草餅やソーマン流し、柚子湯や菖蒲湯・バラ湯等、入浴にも季節感を取り入れたたり、狭いながらも居心地よく、過ごせるような工夫を行っている。 (外部評価) 狭すぎず広すぎない居心地のよいサロンで、くつろぎながら一日の大半を過ごしている。室内は勿論、広い庭や畑も掃除が行き届き、気持ちが良い。窓から見える外の景色から季節を感じられる。	※	今後も、季節感を取り入れ、清潔で、心地よく暮らしていただけるよう努める。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間を共用の場とし、利用者同士の交流に役立てている。また、自室を利用し、気ままに過ごしていただけるよう配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分が、長年使い愛着のある、椅子やタンス等を自室に置き、また観葉植物等、ご家族が持って来られたものを飾ったりして、居心地よく暮らせるような配慮を行っている。 (外部評価) 畳の居室はほっと一息つける場所である。家族の協力を得て、テレビ・写真・カレンダーなどが持ち込まれ、一人ひとりの個性を感じられる空間をつくっている。	※	今後も、共同生活の中にありながら、利用者一人ひとりのプライバシーにも配慮した、環境づくりを行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 食事作りの煮炊きをする場合、換気扇を活用。また居間に空気清浄機を設置。トイレに換気扇はないが、窓を開放したり、消臭剤を活用したりと、臭気に対応している。室温も、利用者の様子に合わせて、こまめに調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 古い民家を改修している為、今までの、利用者の方の生活と大差がなく、すぐに馴染める。少しの段差や片方だけの手すり等を利用し、日常的な機能訓練としたり、その中で見守りし、安全確保と自立への支援を行っている。	※	職員が、手助けしながら、できるだけ自立した生活が送れるように、今後も支援していく。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 古い民家を改修した造りの為、利用者にとっては、なじみがあり、落ち着ける空間となっている。今の所、混乱なく落ち着いた、生活を送っていただいている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭に季節ごとに花を植え、その花々を四季折々に楽しむ事ができる。腰を下ろして庭を眺めたり、話ができるように、ベンチを置いている。また裏庭では野菜作りを行い、利用者の方の、出来る力を活かしていただいている。	※	今後は、利用者と地域の方との交流が、庭先でも気軽に行えるように努めていきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の関わりの中で、言葉や表情または態度から、今、何をしたいのか、どんな思いでいるのか等、利用者一人ひとりの意向を把握している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	10時や3時のおやつの時間や食後にゆったりと会話を楽しみ、散歩の途中で、川を泳ぐ鯉を眺めたり、テレビの時代劇を共に楽しんだり、毎日、ゆったり、穏やかに過ごされている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	居間と自室を行き来しながら、庭に出てベンチに座り、ただのんびりと、庭の草を引いたり、野菜や花を眺めたり、ソファに座り好きな時代劇を楽しんだり、食事作りを手伝ったりと、それぞれの利用者のペースで暮らしていただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「おかげで助かります。」「ありがとうございます。」そんな感謝の言葉かけにさえ、とても、いい笑顔で答えて下さる。本当に馴染みの関係の大切さがわかる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の声かけにより実施している。全員を毎日に、とはいかないが、散歩やドライブを楽しんでいただいている。年に一回は、町外の菖蒲見物にも出かける。また、ご家族へ呼びかけて、里帰りを支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康管理や医療面に関しては、看護職員の配置もあり、利用者、ご家族共に安心していただいている。安全面に於ても、充分注意を払い、安心して過ごしていただけるよう配慮している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりの、思いに応えられるように、配慮しながら支援している。その取り組みが、安心した暮らしへと、つながっていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価)	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族との会話は、常に持つように心がけている。不安や求めていることには、職員全員で話し合いながら対応し、ご家族と、良い関係が築けていると感じている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	運営推進会議をきっかけに、地区との関わりは広がっている。地域の方との週に1回のカラオケ交流や、避難訓練、地区役員会、花火大会見物、クリスマス会等。カラオケ交流では、地域の交流センターを利用している為、通いの場が出来た。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議開催し3年目。年に一度の地区総会参加や年に数回開催の地区役員会。地区役員会については、呼びかけでホームを利用していただいている。避難訓練へも参加していただいたり、地区の方とのカラオケ交流等、運営推進会議がきっかけとなり、確実に少しずつではあるが増えている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は、利用者の方との関わりが楽しいと、生き活きと働いている。利用者に寄り添い、馴染みの関係をさらに築きながら、常に笑顔で頑張っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の方が、職員に対する態度を観察すると、おおむね満足されているのではないと思う。職員の感謝の言葉かけに対して、「お礼を言わんといけんのは、こっちの方よ。」とか「いつもすまんね。」とか言われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族の方も、「こんな風にしてくれたら」とか、「なぜ、あんな態度をとるの」などと、職員に対して不満をもたれている方もおられるかもしれないが、おおむね満足していただいているのでは、と思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

古い民家を改装して造られている為、利用者は、馴染みのあるどこか懐かしい場所と、感じて生活されています。そんな暮らしは、安心感を与え、表情にゆとりが生まれます。裏の畑での野菜作りや庭での花植え、買い物や食事作り、テレビを見たり、散歩をしたり、どこのご家庭でも当たり前を送っている、日常を過ごしていただいています。職員は、同一法人内での研修会等に参加し、研鑽しながら、利用者一人ひとりを、支えています。また、地域との交流においては、運営推進会議開催がきっかけとなり、集会の参加や合同避難訓練、週に一回のカラオケ交流や季節毎の行事等、地域の方との交流が、少しずつではありますが、増えています。これからも、利用者の方々には、教わる気持ちで接し、感謝の言葉を伝えながら、穏やかに過ごしていただけるように、努めていきたいと思えます。